

2025年度
入学試験問題
(A日程)

国語

注意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/6から6/6まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学に入学した孫は、そのままエスカレーター式で高校、大学と進んだ。
俺の出番などほとんどなかった。

夏休みなどの長期休暇には帰省してくれたけれど、長くて一週間程度だった。寂しくないと言ったら嘘になるが、年寄りの相手をするよりも、
① 同年代の子たちというほうが楽しいのだろう。

本人が楽しければそれでいい。

心配だったのは、他の子たちは親元に帰るのに、孫だけが帰る場所がなく寂しい思いをしていないかということだ。俺は孫のホーム、心のより
どころになれてない自覚はあった。

それでも孫は横道にそれることもなく、大学卒業と同時に社会人となった。会社は東京だったので、そのまま一人暮らしを続けることになった。
結局、一緒に暮らしたのは四歳から十三歳までの九年間ほど。いまさら二人暮らしになるほうが、不自然だったのかもしれない。

たまに顔を見せに帰ってくれる孫は、どこか② ① だったのも仕方ない。俺は保護者というよりも、スポンサーと呼ぶほうがふさわしい程
度の子育てしかできなかった。

だから、あの夜のことは忘れられない。

社会人になって初めての夏休み。

まだ就職のお祝いをきちんとしていなかったと、子どもの頃に世話になった近所の人も招いてささやかな宴をモヨオ¹した。
酒も入って気分がよくなっていた俺は、孫との思い出話を披露していた。

子どもの好きそうな料理を作って失敗したことや、運動会や遠足などの行事に戸惑いながら参加したことや、宿題を一緒にしたこと。

俺の隣で微笑みながら、時折うなずきながら話を聞いていた孫。

けれど、宴がお開きになり、近所の人たちが帰って二人きりになったとき言われたのだ。

「ごめんなさい。本当はあんまり覚えていないんだ」

覚えていないとは？

「変だよ。記憶がコンダク²しているっていうか、途切れ途切れの記憶はあるんだけど、連続性がないっていうか」

孫がいい子であろうと自分を押し殺していたのは感じていた。

本当は辛かったのか？

思い出したくもないほど辛かったから、記憶を消したのか？

③ 「近所の人たちにお世話になったことも、なんとなく覚えてる。でも、具体的な思い出が浮かばないっていうか。両親のこととかも……」

俺の表情を見て、孫は慌てて付け加える。

「あ、でも、そもそも四歳までの記憶なんて曖昧だし。子どもなんて、そんなものかもね」

四歳ならそうだろ。でも、小学生なら、もっと思い出があるはずだ。

俺のせいだな。口に含んだ日本酒が、苦い。

後悔と罪悪感で押しつぶされそうだった。

もし、俺が間違いを犯さなければ、孫とは世間一般の孫と祖父の関係で、もっと交流があって、遠慮しながら暮らすようなことにならなかった
に違いない。

俺がちゃんと好々爺³になれていたら……。息子に絶縁宣言なんかしなければ……。

今さら謝っても仕方ない。時間は戻らない。それでも、懺悔⁴をしなければ、真実を伝えなければと思った。

懺悔をして、楽になりたいという自己中な考えだ。その結果、軽蔑され、憎まれることになっても。今よりも関係が悪くなったとしても。

言うべきだ。

奥歯をグツと噛んで、心の震えを押さえ込む。真実を伝えなければ……と口を開きかけたときだった。

「でも、おじいちゃんをよく絵本を読んでくれたよね」

ほんの少し笑みを浮かべた口元から零れた柔らかい声と優しい言葉に、涙が眼球を押し上げる。慌てて瞼⁵を閉じた。

それはお前がねだったから。それに、それぐらいしかできなかったから。子どもとどう遊べいいのかわからなかったから。

「嬉しかった。それだけは覚えてるんだ、はっきりと」

喉の奥が熱くなる。言えずにいた言葉が、紙切れのように燃えている。

「きつとお母さんやお父さんの温もりを感じていたんだと思う」

でも俺は、お前が小学生になった頃から、絵本を読んでやらなくなった。自分で読めるだろうって。

「そうだったっけ？ おじいちゃんが読んでくれていたんじゃない？」

お前は小首⁶を傾げる。

その仕草、表情で、本当に記憶がないのだということがわかった。

俺が奪ったのだ。彼女の幸せな子ども時代を。

正直に言う。小学生になってからは、絵本を読んでやっていないと。

⑤ 「でも、絵本を手を取っているときは幸せな気分だった。それは間違いないし、そうなれたのは、おじいちゃんが私を大切に思ってくれていたか
らでしょ」

俺はお前の父親、つまり息子に酷いことをしたんだ。

だから、四歳になったお前とほぼ初対面で……。

「中学からずっと私立の学校に通わせてくれて、ありがとう」

礼を口にするお前は、今でも俺にどこか遠慮しているかのようだった。
「所々記憶は欠けていて、曖昧な部分が多いけれど、絵本を読んでもらっていたとき、読んでいたときの、幸せな気持ちは覚えている」
本当に？

俺にはお前が氣を遣って無理に微笑んでいるようにしか見えなかった。

いい祖父ではなかった。

いい父親でもなかった。

親子でも相性がある。親にも理想がある。

俺と息子はまさにそれだった。

息子は体が弱く、野球やサッカーをするよりも、家で絵を描いているのが好きな子どもだった。
それが不満だった。

息子の体が弱いのは、お前が過保護に育てたせいじゃないか、と妻を責めたこともあった。

息子は絵の勉強をしたいと芸術大学を目指し上京して、会社を継がずにそのまま東京に住み着き結婚までした。

俺への反発か。それとも単純に自分のやりたい道に進んだだけか。

一人息子が会社を継がないと宣言したときは、深い絶望の淵に落とされた。二度と顔を見せるなど怒鳴ってしまった。
自分のすべてを否定された気がした。

だが、それは俺が息子にしてきたことだ。

憎んでいたわけじゃない。愛情がなかったわけじゃない。会社を継げば、ずっとサポートできたし、アンタイした人生を渡せると思った。

偏見に歪んだ愛情だとわかっていた。認めたくなかったが。

妻経由で、結婚したことも子どもが生まれたことも知った。

なにも言わないし、言えなかったけれど、本当に嬉しかったんだ。

俺とは絶縁したけれど、妻とは交流があったから、いつかは修復できると思っていた。すぐには難しくとも、少しずつ歩み寄って行けば、いつかは俺のことを許してくれるんじゃないかと期待していた。

けれどまさか、あんなことが起こるなんて。

唯一の架け橋だった妻が脳梗塞で急死した。葬儀に力つけてくれた息子夫婦と乳飲み子の孫。

一周忌、三周忌を経て、息子と最低限の会話を交わすことができるようになった。孫を抱くこともできた。柔らかい温もり。零れそうになる涙を止めるので必死だった。

⑥ 妻からの最後の贈り物なのかもしれない。

そう思い、妻の死から立ち直りかけたさき……、いつかは息子とのわだかまりも……そんな甘ったれた考えは許されなかった。息子夫婦は事故に遭い、あの世に逝ってしまった。

こんなに早く別れがくるなんて、微塵も想像していなかった。子どもが親を置いて亡くなるなんて。

どんなに悔いても嘆いても時間は巻き戻らない。

俺は孫と、二人ぼっち残された。

まだ幼い娘を残して、どれだけ心残りだったろう。

代われるものなら、代わってやりたい。

由良、ごめん。

今さら謝っても時間は戻らない。

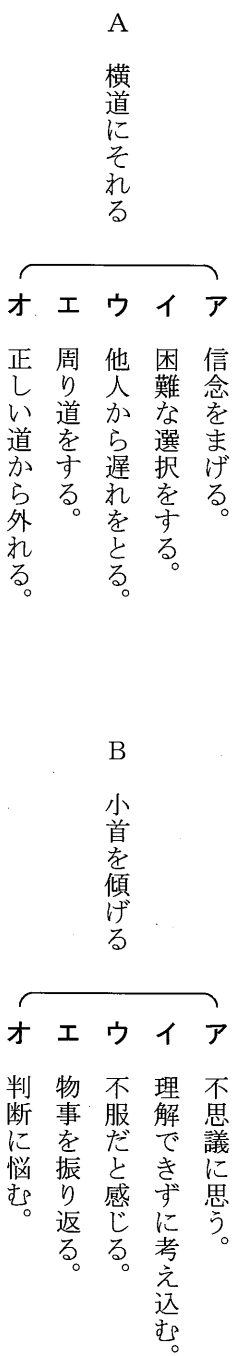
俺がお前の子ども時代を奪ってしまったんだろ。うな。

神様。どうか息子の想いが由良に届きますように。

(有間カオル『忘れものは絵本の中に』)

問一 ―― 線部1〜4のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ―― 線部A「横道にそれる」、B「小首を傾げる」、の本文中の意味として適当なものをそれぞれの語群ア〜オから一つずつ選び、記号で答えなさい。



問三 ―― 線部①「本人が楽しければそれでいい」とありますが、このように俺（祖父）が思う理由として、最も適当なものを次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

- ア 孫が感じている寂しさを理解できないため、自分の元に帰ってきて何も相談に乗れないと感じているから。
- イ 孫の望む生活を送らせてあげられないため、自分の元に帰ってきてても不自由な生活になると心配しているから。
- ウ 孫の心の支えになれていないため、自分の元に帰ってきてても幸せだと感じることはないと思っているから。
- エ 孫がどのように暮らしているかを知らないため、自分の元に帰ってきてても孫が求めるものが何かわからないから。
- オ 孫と心を通わせることができていないため、自分の元に帰ってきてても一緒に話せる話題がなく気まずいから。

問四 ①②に入ることばとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 自立自存 イ 独立独歩 ウ 厚顔無恥 エ 沈着冷静 オ 他人行儀

問五 線部③「俺の表情を見て、孫は慌てて付け加える」とありますが、このときの孫の心情として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 子どもの頃の思い出は断片的なものしかないと伝えたことで、傷つけてしまった祖父の心をなんとか回復させたいと焦っている。
イ 祖父が気分良く語った思い出を覚えていないと打ち明けてしまい、祖父に対して配慮が足りなかったと自分の行動を責めている。
ウ 記憶に残る思い出がないということが祖父を裏切っているように感じられ、急いで言い訳をしてその場をおさめようと思っている。
エ 祖父が嬉しそうに語った思い出話が、自分にとっては忘れてしまいたいほどつらいものだったことを悟られないようにしている。
オ お世話になった人への感謝の気持ちはあるのに、細かいことを覚えていないのは薄情だと祖父に決めつけられ、弁解をしようとしている。

問六 線部④「涙が眼球を押し上げる」とありますが、このときの俺（祖父）の状態として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 思い出したくもない辛い過去を作ってしまったのは自分なのに、それでも優しい思いを伝えてくれる孫に感情があふれ出している。
イ 記憶を消すほど辛かった過去の中に、少しでも温かい思い出があることを知って、孫の人生が救われたと嬉しさを隠しきれないでいる。
ウ 自分にとっては必要に迫られた行動に過ぎなかったのに、孫が唯一の温かい思い出として語ることに感情を抑えきれずにいる。
エ 孫の人生を辛いものにしてしまった罪悪感から抜け出せない自分に、孫自身が慰めの言葉をかけてくれたことに申し訳なさを感じている。
オ 孫が語った思い出があまりにも嬉しいもので、憎まれても伝えなければならないことがあると追い込んだ自分の決心が揺らいでいる。

問七 線部⑤「俺はお前の父親、つまり息子に酷いことをしたんだ」とありますが、「酷いこと」とはどのようなことですか。本文の言葉を使って四十文字以内で説明しなさい。（句読点、記号は字数に数えます。）

問八 本文に二カ所ある線部は、俺（祖父）が感じている孫の様子です。この様子を端的に表した一語を本文から探し、書き抜きなさい。

問九 線部⑥「妻からの最後の贈り物」とはどのようなものですか。十五文字以内で答えなさい。（句読点、記号は字数に数えます。）

問十 この文章は読者である私たちにどのようなことを教えてくれていますか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 家族の関係が悪化したのは互いに思いをぶつけ合わなかったせいであり、問題にあえて触れないというのは表面上の平穏さしか生み出さないとすること。

イ 巻き戻せない時間の中では二度と気持ちが伝えられないこともあるため、今生きている人と言葉を交わし相手を認めていくことが大切であるということ。

ウ 良好な人間関係を保つことは幸せな人生を送るために大切で、それを実現するためには最初から人を傷つけるような言動は慎まなければならないということ。

エ 子どもを思う親の思いは必ずしも良い方向に子どもを導くことはなく、お互いが話し合いを通して妥協し合える点を見つける必要があるということ。

オ 言葉によって相手に伝わってしまったものは決して消えないので、これから生きていく中で相手を思いやる言葉を選ぶことが重要であるということ。

問十一 本文の表現の特徴として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 俺（祖父）と孫のそれぞれの回想シーンを挿入することで、過去から現在へどのように心情が変化したかが捉えやすくなっている。
イ 過去と現在が交互に描かれることで、場面ごとに揺れ動く俺（祖父）と孫の心情が見え、物語に重層感が生まれるようになっている。
ウ 心理描写や情景描写に比喩表現を多用することで、場面ごとの俺（祖父）と孫の具体的な様子が鮮やかに想像できるようになっている。
エ 俺（祖父）の台詞に「」を使用しないことで、発した言葉と心中の思いが重なり、自然と心情に寄り添えるようになっていく。
オ 俺（祖父）と孫の心情が台詞だけでなく、それぞれの目線から描かれることで、読者が感情移入しやすいようになっていく。

問十二 線部「懺悔をして、楽になりたいという自己中な考えだ」とありますが、これについて生徒たちが話をしています。生徒Cの【 】に入る最も適当なものを後のア～オから選び、記号で答えなさい。

生徒A 考えたんだけど、私はこの部分がちよつとよくわからなくて……。

生徒B 「懺悔をして楽になる」というのは、今まで隠していたことを告白して、重荷を降ろすということだね。

生徒A どうして重荷を降ろすことが、自己中心的になるのかな。

生徒C それは、【 】だと思うよ。

生徒A そうか。なるほど。おじいさんはすぐ他人の立場になって考えられる人なんだね。

生徒B そうだね。ここでは自分にとってもマイナスの結果になるかもしれないけれど、話さなくてはならないと思うほど重要なことなんだね。

ア 自分が話した後、相手がどのように受けとめるかは相手次第だということになるから

イ 自分は打ち明けて楽になっても、それを受けとめる相手は苦しむことになるかもしれないから

ウ 相手を傷つけたことは消えないのに、自分は許してもらって罪の意識を消そうとしているから

エ 罪悪感を抱いてきたことを話して、相手に自分を憎ませることで同じ立場にしようとしているから

オ 自分がしてしまったことなのに、耐えられなくなったからといって責任を放棄することになるから

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

自然科学の世界では、いちど反証された理論は打ち捨てられてしまします。だから学生が学ぶときには最新の教科書だけが必要で、過去の著作は不要なわけです。「いろいろな学者がシコウサクゴ¹をしてきたけど、いまのところもつともうまく自然を説明できる理論はこれです。これを勉強してください」となる。

ところが人文学ではそうはいきません。学生もまずは過去を学ぶところから入らなければならぬ。それは人文学が訂正の学問だからです。哲学にも打ち捨てられ忘れられた理論がたくさんあります。でもそれを完全に忘れるわけにはいかない。いつ「じつは……だった」の論理で復活するかわからないからです。ここが、^①理系と文系ではまったく違うところ*です。【中略】

理系の世界には現在の理論しかありません。過去の理論は必要ありません。同じように経済学の世界には未来の利益しかありません。過去のサ^{*}ンクコストは切り捨てべき対象です。

けれども人文学の世界ではそう考えません。未来の可能性は、過去の訂正によってこそ切り開かれると考えます。だから、できるだけ多くの過去の可能性を蓄積しておくことが、未来を豊かにすることだと考えるのです。たとえば図書館はまさにそういう発想でつくられています。いま必要とされる本だけを集めていたのでは、まともな図書館になりません。

だから^②ぼくは、文系の学問はこれから必要とされ続けると 생각합니다。人間が人間であり、過去を記憶する存在であるかぎり、理系の発想だけで社会が覆われることはありません。最近文系不要論が盛んですが、そこをしつかりと訴えればいいのだと思います。

ここまで、バフチン、クリプキ、ウイトゲンシュタイン、ポパーといった思想家の名前を出しながら、「訂正する力」の哲学的な本質について考えてきました。訂正する力が人間社会の本質にねざすものであり、失つてはいけぬものであることがわかっていただけたと思います。

そんな人間社会はどれほど続くのでしょうか。最近では、^③人工知能の発達で数十年後には人間社会は劇的に変わる、哲学も芸術もビジネスもすべてが変わると主張するひが増えています。そういうひとからすると、本書の主張は賞味期限が短いものに見えるかもしれません。

けれども、ぼくはその見通しはまちがいでないかと思っています。というのも、人工知能がどれだけ発達しても、人間のほうはあまり変わらないからです。

なぜそんなことが言えるのか。たとえば近年、盛んに議論されている「シンギュラリティ」という概念があります。人工知能が人間の知能を超え、世界が劇的に変わる時代の²トウライ²を表す言葉です。

(a)、この言葉を³テイショウ³ウしたレイ・カーツワイルという未来学者の本を読むと、表面的に新しいアイデアに見えるものの、実際にはかなり古臭いアイデアの組みあわせで書かれたものであることがわかります。

欧米の思想には「ユダヤ・キリスト教的終末論」というものが深く入り込んでいます。ひとこと言え^④ばいつか神が来て世界が終わるという思想ですが、これは「^④」を替え「^④」を替え近代でも生き残っています。

そのひとつに、19世紀のロシアで生まれた「宇宙主義」に起源をもち、ティヤール・ド・シャルダンやマーシャル・マクルーハンなどを通過してIT産業の揺籠^{ゆりかご}であった1970年代のカリフォルニアにも入り込んだ、一種の神秘主義の流れがあります。カーツワイルはまさにその継承者です。だから、神¹人工知能の時代が来て、ひとはみな救われるという話になるのです。(b)、人間の時代が終わるという思想そのものが、とても人間臭いものなのです。

(c)、これから人工知能はどんどん発達するでしょう。けれどもそれによって人間の社会がどこまで変わるかは未知数です。(ア)

人工知能が現れさえすれば人間の歴史が終わるという主張には、あきらかに一定の思想的なバイアスが入り込んでいます。だからあまりまじめに取る必要はありません。それはぼくのような人文系の人間からすれば^A自明^Aで、逆にエンジニアやビジネスのひとがわからないのが不思議です。

ちなみに『ホモ・デウス』を書いた歴史学者、ユヴァル・ノア・ハラリにも同じような傾向があります。彼はイスラエル人であり、もつとダイレクトにユダヤ教の影響があるのかもしれませんが、ヘイ

ごかいしてほしくないのですが、ぼくは、技術的な意味でのシンギュラリティ、つまり人工知能が人間の知能の能力を超えるときは来ると信じています。(ウ)

けれどもぼくは、それが人間の生きかたを劇的に変えるとは思わないのです。

メディア・アーティストの落合陽一さん¹とつぎのような話をしたことがあります。人工知能が人間の知能を超えると、人工知能自体が自然界のデータをじかに集め、処理し、新しい理論をつくり、その理論をもとにテクノロジーを生み出す時代が来る。そうすると、人間は人工知能が理解している世界を理解できなくなつて、ただテクノロジーの恩恵を受けるだけになる。

落合さんはそれを人間の危機と感じていたようでしたが、ぼくは見たが違っていました。というのも、ぼくには^⑤それは、人間のいままでのありかたとあまり変わっていないように感じられたからです。

人間はいまでも自然界を完全には理解できていません。メカニズムがわかっていないことが無数にある。そしてそんな理解できない自然の恩恵を受けて生きている。

そもそもぼくには、人間が自然を完全に理解できるという発想のほうがおかしく思えます。人間はたいへん小さな頭脳しかもっていません。計算速度も遅い。加えて動作期間はせいぜい100年くらいしかなく、記憶の移転もできない。こんな⁴ケツカン⁴だらけの計算機が世界を理解できるわけがない。

^⑥歴史的に見れば、人間の脳が世界全体を理解できるという発想自体が、ここ300年400年ぐらいのヨーロッパで生まれた幻想にすぎません。シンギュラリティのとうらいでその夢から覚めるのだとすればけっこうなことです。それは科学者のプライドを打ち崩すかもしれませんが、同じことは地動説や進化論のときも起きました。(エ)

ぼくの関心は、そのような技術の誕生で人間社会がどこまで本質的に変わるのか、人間の苦しみや悩みは消えるのかといった問題のほうにあります。その点では、とくに新たな展望は開けていません。(オ)

人工知能は産業構造を変えます。しかし社会の本質は変えません。これから5年、10年でその差異があきらかになってくるのではないでしょう

なぜ社会の本質は変わらないのか。そこでまた訂正する力が関係してきます。

社会はゲームです。しかもどんなルールが変わっていくゲームです。そのダイナミズムを支えるのが訂正する力です。^{*}それは人工知能には担えません。むしろ、いまの人工知能は定められたルールにはとても柔軟にしたがうことができます。適切な目的さえ設定すれば、自分でルールを発見し、ルールの変更にも対応することができるとでしょう。けれども、ここでは詳しく述べませんが、人工知能が身体をもたない以上、その対応にはどうしても限界が生じると考えられます。

人間の訂正する力の^B発露はじつに自由自在です。たとえば人間は、⁵「フモウな論争を打ち切るために、まったく関係のない身体的な行為を導入することがあります。

それはとても具体的で、身近なことです。論争で疲れたので一緒に酒を飲むとか、恋人同士であればスキンシップや性的な接触をもつとか、そういうことです。いっけんそれは言語ゲームと関係ないように思われるかもしれませんが、これもまた一種の訂正の行為です。そしてそのような接触によって、さつきまで続いていた争いがどうでもよくなるということも、またじつによく起きていることです。というよりも、^⑦人間関係の調整とは本質的にはそういうものです。はたしてそのような訂正が人工知能に可能でしょうか。

ぼくは、そのような力をもたないかぎり、人工知能の出現は人間のあいだのコミュニケーションの⁶コンカンを揺るがさないと考えています。そして逆に、もしかりに人工知能が官能的な身体をもち、そのようなコミュニケーションの訂正まで可能になったとしたら、そのときはそれはもはや人間と本質的に変わらない存在になってしまい、かえって社会のありかたにも影響しないように思われます。だから、どちらにしろ、人間の問題はいまと変わらず残り続けると思うのです。

（東浩紀『訂正する力』）

*サンクコスト……過去に払ってしまい、もはや取り戻すことができない費用のこと。

*バイアス……先入観や偏見。

*ダイナミズム……そのものが持つ力強さ。迫力。

問一 —— 線部1～6のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 —— 線部①「理系と文系ではまったく違う」とありますが、その違いを説明したものとして、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 理系の学問は文系の学問とは異なり、実益の優先が第一であり抽象的な解答は求めないということ。

イ 理系の学問は文系の学問とは異なり、未来の利益を考えて現在の理論より優れたものを探すということ。

ウ 理系の学問は文系の学問とは異なり、現在の理論に修正を加えながら正しい理論を求めるということ。

エ 文系の学問は理系の学問とは異なり、一度否定された理論が再び認められることがあるということ。

オ 文系の学問は理系の学問とは異なり、理論では証明できない問題も感覚として捉えられるということ。

問三 —— 線部②「文系の学問はこれからも必要とされ続けると思います」とありますが、筆者がこのように思うのは文系の学問にどのような点があるからですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 人間が記憶している過去を消えないように大切に文字として残している点。

イ 人間が積み上げてきた過去によって未来における生き方を教えてくれる点。

ウ 人間が受け継いできた過去を価値観の違いを越えたところで肯定している点。

エ 人間が切り捨ててきた過去が未来の発展のために再び役立つと考えている点。

オ 人間が忘れ去った過去が実は現在の豊かな生活のために必要だと見なしている点。

問四 —— 線部③「人工知能の発達で数十年後には人間社会は劇的に変わる」とありますが、筆者自身が人工知能の発達で変わると考えているものは何ですか。適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 経済学の理論

イ 人間の生きかた

ウ 人間の苦しみや悩み

エ 自然界の捉え方

オ 産業の構造

問五 (a) (c) にあてはまる言葉を次のア～キから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は二度使えません。)

ア だから

イ つまり

ウ さらに

エ むろん

オ けれども

カ そして

キ そこで

問六 —— 線部④「一」を替え「二」を替え」とありますが、「一」にそれぞれ異なる漢字を入れて、言葉を完成させなさい。

問七 —— 線部A「自明」、B「発露」、の本文中の意味として適当なものをそれぞれの語群ア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 自明		B 発露	
ア	説明する必要もなくはつきりしていること。	ア	伸び広がっていくこと。
イ	納得して理解していること。	イ	新しい分野を切りひらくこと。
ウ	肯定的な評価をしていること。	ウ	十分に役に立てること。
エ	制約を受けずに確立できること。	エ	おもてに現れ出ること。
オ	他からの指示を待たずに進んでいくこと。	オ	影響を与えること。

問八 本文からは次の一文がぬけています。どこに入れるのが適当ですか。最も適当な所を本文中の〈ア〉〈オ〉から選び、記号で答えなさい。

いま人間がやっていることは、ほとんど人工知能でできるようになるでしょう。

問九 —— 線部⑤「それは、人間のいままでのありかたとあまり変わっていない」とありますが、これはどういうことですか。本文の言葉を使って七十字以内で説明しなさい。(句読点、記号は字数に数えます。)

問十 ― 線部⑥「シンギュラリティ……けっこういうことです」とありますが、筆者がそのように思うのはなぜですか。最も適当なものを次のアから選び、記号で答えなさい。

- ア たいした能力を持たない人間が世界を把握できると考えることは、現実的ではないと思っているから。
- イ 間違った答えを導き出す人間が人工知能に勝ると見なすことは、人間のおごりであると思っているから。
- ウ 限られた時間しか生きられない人間が自然を征服しようとすることは、自然への敬意がないと思っているから。
- エ 科学の力を信じている人間が自然の脅威を前にして抵抗できないと気づくことは、当然だと思っているから。
- オ 科学技術の発展を追求する人間が世界を変えようと意気込んでいることは、無意味なことだと思っているから。

問十一 ― 線部⑦「人間関係の調整」とありますが、ここで人間はどのように人間関係を調整していくと述べられていますか。最も適当なものを次のアから選び、記号で答えなさい。

- ア 意見が異なり結論がでない場面に直面したときは、互いがゆずりあえるように第三者が適切な助言を与える。
- イ いくら論争してもわかり合えない相手に固執しては疲れてしまうので、きっぱりと切り捨てる判断をする。
- ウ 問題を解決するために示された複数の方法に一貫性がなくても、その時々^{時々}の決定に柔軟に対応をする。
- エ 先の見えない無駄な争いを打ち切るために、役に立たない現在のやり方を破棄して新しい方法を探し出す。
- オ 問題解決に行き詰まったときに、それまでの流れと異なる論理的には説明のできない方法を取り入れる。

問十二 本文の内容に合っているものを次のアから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人工知能は適切な目的設定に従って自らを更新できると同時に、過去の理論は人間によって消去されるので、常に最新の情報を保持している状態にある。
- イ 人工知能の技術的な側面は人間の能力を越えると考えられるが、人間のコミュニケーションのあり方は変わらないので、社会が人工知能に覆^{くわ}されることはない。
- ウ 人工知能が人間と同等の身体をもつようになると、あらゆることにおいて人間と同じ行動をするので、人間と人工知能の差異を問題にすることはなくなる。
- エ 人工知能の発達はどんどん加速すると考えられるが、それに伴って人間の社会がどこまで変わるかは未知数なので、人間が存在の危機を感じることも理解できる。
- オ 人工知能が人間と本質的に変わらない存在になると、コミュニケーションの訂正を人工知能にゆだねることができるので、人間が抱える問題は軽減される。

問一	1	モヨオ
	2	コンダク
	3	アンタイ
	4	カ

し

け

問二 A

B

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

問十二

問一

1	シコウサクゴ
2	トウライ
3	テイシヨウ
4	ケツカン
5	フモウ
6	コンカン

問二

問三

問四

問五

a

b

c

問六

を替え

を替え

問七 A

B

問八

問九

問十

問十一

問十二

受 験 番 号

問一	1 モヨオ	2 コンダク	3 アンタイ	4 カ
催し		混濁	安泰	駆け

問二 A	オ	B	ア	問三	ウ	問四	オ	問五	ア	問六	ウ
------	---	---	---	----	---	----	---	----	---	----	---

問七	自	分	の	会	社	を	継	が	ず	に
、	や	り	た	い	道	を	選	ん	だ	
こ	と	に	絶	望	し	て	、	絶	縁	
宣	言	を	し	た	こ	と	。			

問八 遠慮

問九	息	子	と	の	関	係	を	修	復	す	る	機	会	。
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問十	イ	問十一	エ	問十二	イ
----	---	-----	---	-----	---

問一	1 シコウサクゴ	2 トウライ	3 テイショウ	4 ケツカン	5 フモウ	6 コンカン
試行錯誤		到来	提唱	欠陥	不毛	根幹

問二	エ	問三	イ	問四	オ
----	---	----	---	----	---

問五 a	オ	b	イ	c	エ	問六	手 を替え 品 を替え
------	---	---	---	---	---	----	----------------------

問七 A	ア	B	エ	問八	ウ
------	---	---	---	----	---

問九	仕	組	み	を	理	解	せ	ず	に	テ
ク	ノ	ロ	ジ	丨	の	恩	恵	を	受	
け	る	こ	と	は	、	自	然	界	を	
理	解	し	な	い	ま	自	然	の		
恩	恵	を	受	け	て	い	る	今	ま	
で	の	人	間	の	あ	り	方	と	同	
じ	だ	と	い	う	こ	と	。			

問十	ア
問十一	オ
問十二	イ

受 験 番 号